

4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人市中肺炎の患者様の人数を重症度別に集計しました。重症度は、成人市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)による※重症度分類(A-DROPスコア)を用いて分類しました。
A-DROPとは5つのチェック項目の頭文字をつなげたものであり、スコア0を軽症(外来治療)、1~2を中程度(外来または入院治療)、3を重症(入院治療)、4~5を超重症(ICU治療)として推奨される治療環境を簡便に判断できるようにしています。

A-DROPスコア

- ・A(Age; 年齢): 男性70歳以上、女性75歳以上
- ・D(Dehydration; 脱水): BUN(尿素窒素) 21mg/dL以上、または脱水あり収縮期血圧90mmHg以下
- ・R(Respiration; 呼吸): SpO₂(酸素飽和度) 90%以下(PaO₂(動脈血酸素分圧) 60Torr以下)
- ・O(Orientation; 見当識): 意識障害あり
- ・P(Pressure; 血圧): 血圧(収縮期)90mmHg以下

重症度分類

- ・上記項目のいずれにも該当しない場合は軽症
- ・上記項目の1つ、または2つに該当する場合は中等症
- ・上記項目の3つに該当する場合は重症
- ・上記項目の4つ以上に該当する場合、または1項目のみの該当であってもショック症状が見られた場合は超重症

定義

入院のきっかけとなった傷病名、および最も医療資源を投入した傷病名が、肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(DPCコード:040080相当)であるものとし、インフルエンザ等のウイルス性肺炎(DPCコード:040070相当)、及び誤嚥性肺炎(DPCコード:040081)は除外とする。入院後発症の肺炎、一般病棟以外からの転入、他院からの転院も除外とする。

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	—	12.25	63.75
中等症	28	26.68	84.25
重症	—	11.17	87.17
超重症	—	7.00	88.00
不明	—	—	—

解説

患者数が10未満の数値には、規定により(—)ハイフンを記入しています。
成人市中肺炎とは、病院外で社会生活を営む健康人に起こる肺炎のことをいいます。
当院では中等症の患者様が最も多く、全体の約7割という結果でした。中等症レベルとは、脱水を伴う状態であれば入院治療が必須となる状態のことです。
高齢になるほど重症化しやすく、重症化するほど死亡リスクが高まります。H30年度に肺炎と診断され、入院時に超重症・重症に該当した症例は、約7割が死亡退院という結果でした。そのため症状発生時には直ちに受診し、診断早期より入院下で治療管理することが大切と考えます。